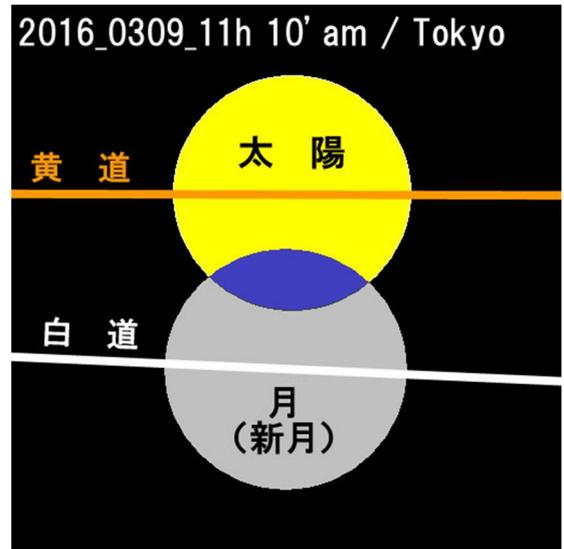
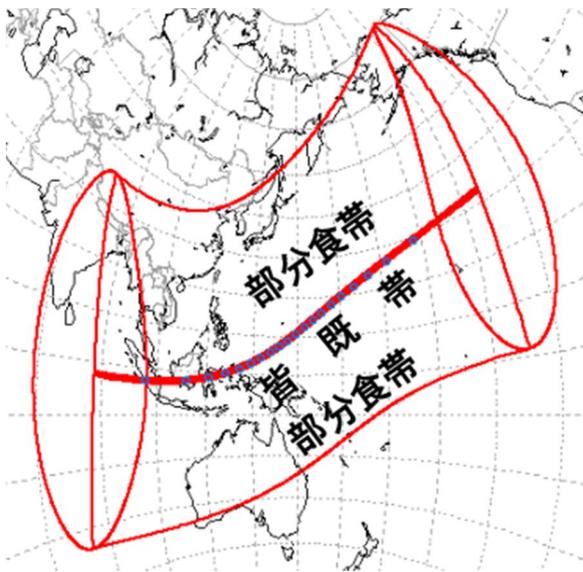


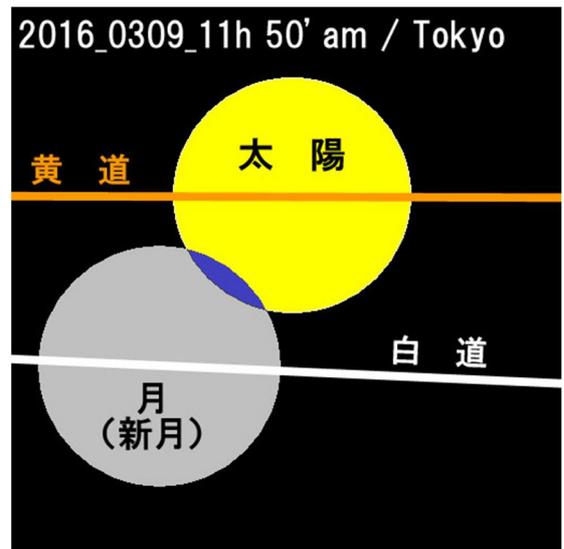
### 「3月9日の部分日食」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

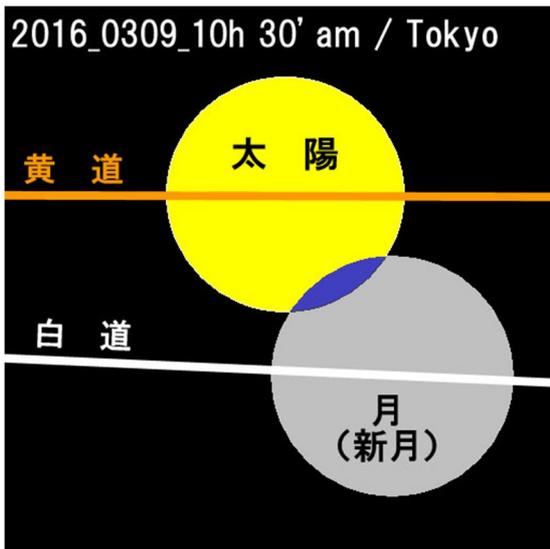
明日の午前中、アジア南東部で日食が見られる。赤道に近いインドネシアや太平洋上では、皆既日食になる。日本では皆既日食にはならないが、部分日食は全国で観察できる。南に行くほど、食分(欠ける割合)が大きい。下図が日食の全体図(国立天文台・暦計算室より)である。実は、日食は月食よりも発現頻度は高いのだが、特に皆既帯は狭いので、一生に見られるチャンスは、月食のほうが多い。



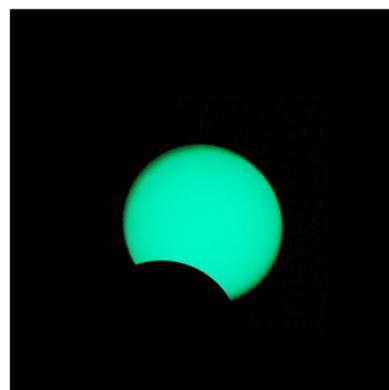
上図が「食の最大」の時の図である。東京での食分は約 25%。太陽の直径の約 4 分の 1 が欠ける。



上図は日食終了の 20 分前頃の図である。月は太陽の下面をかすめて、左下から抜けてゆく。



上図は日食が始まってしばらくした図である。日食は天球上で太陽と月が重なった時に起きる。天球上では月の動きのほうが、太陽の動きよりも遅い。したがって、太陽が月を追いかけるような形になる。今回の日食の場合、太陽の右下から欠け始める。



観察には遮光版を使う必要がある。写真は、2011年5月の金環食の時の写真(田中撮影)だが、今回、食分が最大の時に遮光版で見ると、こんなふうに見えるだろう。